



ナピちゃん



ナポくん

やまとの安全

令和元年
上半期

県内特殊詐欺情勢

特殊詐欺の統計を見直しました。

重要

最近、警察官や金融機関職員等を装った犯人が被害者宅を訪れ、「新しいカードに交換する」などと言ってキャッシュカードをだまし取る手口による被害が増加傾向にあります。

これに似た手口で、犯人が「あなたの口座が犯罪に使われているので、カードを封印する」などと言い、キャッシュカードを封筒に入れた後、犯人が用意した別のカード入りの封筒にすり替えて持ち去るものがあり、刑法上は「窃盗」に当たるため、これまでは「特殊詐欺」とは分けていました。

この手口は全国的に急増しており（奈良県：本年上半期で12件）、このたび、全国的にこの手口を特殊詐欺の統計に含めるように見直されることとなりました。

「窃盗」の手口を含めた奈良県の「特殊詐欺」の統計(令和元年6月末現在)は、以下のとおりです。

市町村別特殊詐欺被害件数及び被害額(令和元年上半期)

市町村	件数	被害額(約)	市町村	件数	被害額(約)	市町村	件数	被害額(約)
奈良市	25	2,660万円	御所市	2	33万円	五條市	1	50万円
橿原市	9	674万円	三郷町	2	450万円	王寺町	1	124万円
生駒市	7	870万円	広陵町	2	107万円	斑鳩町	1	30万円
大和郡山市	5	1,475万円	桜井市	1	200万円	田原本町	1	400万円
天理市	3	725万円	大和高田市	1	30万円			
平群町	3	985万円	香芝市	1	10万円			

県内被害件数及び被害額

65件 約8,825万円



特殊詐欺被害防止の合言葉

電話口 お金の話 それは詐欺

～電話でお金のお話ができれば詐欺を疑って、ご家族や警察に相談してください～

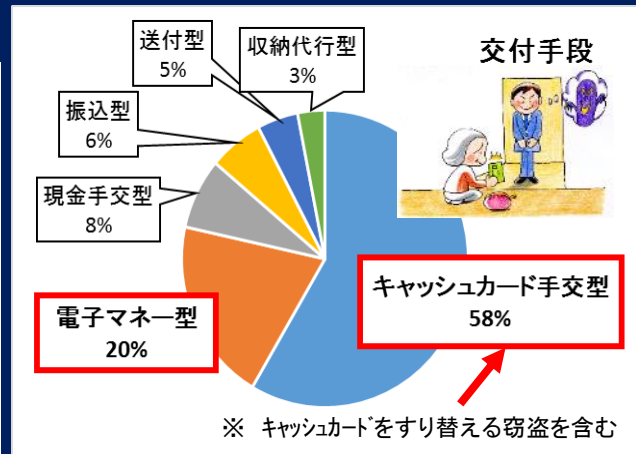
令和元年8月2日
奈良県警察本部課
生活安全企画課
(犯罪抑止対策室)

○ 県内で流行の手口 (令和元年上半期)

「キャッシュカード手交型」が半数以上、「電子マネー型」が20%を占めました。

「キャッシュカード手交型」は、被害者をだましてキャッシュカードの暗証番号を聞きだし、被害者の自宅までカードを取りに来るもので、カードをだましとった後(あるいはすり替えて盗んだ後)、口座から現金を引き出してしまいます。

「電子マネー型」は、「インターネットサイト利用料が未納で裁判になる」などと言って被害者をだまして電子マネーを購入させ、額面分の金額をだましとるものです。

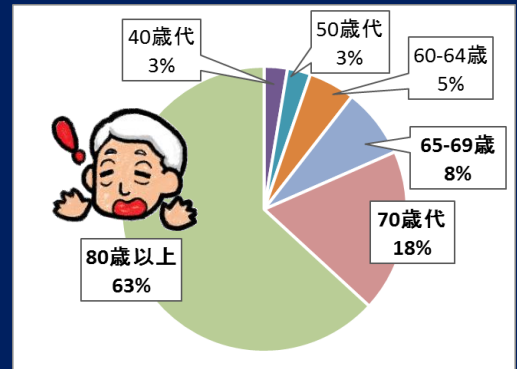


○ キャッシュカード手交型 (令和元年上半期)

「キャッシュカード手交型」は、被害者の約9割が65歳以上の高齢者で、特に80歳以上の被害が目立ちます。

警察官や金融機関職員がカードを預かったり、暗証番号を聞いたりすることは絶対にありません。

他人には絶対にカードを渡したり、暗証番号を教えないようにしましょう。



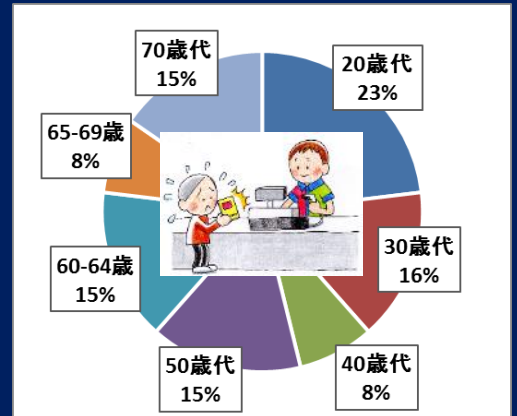
渡すな！キャッシュカード 教えるな！暗証番号

○ 電子マネー型 (令和元年上半期)

「電子マネー型」の被害者の年齢層には偏りはなく、20歳代から70歳代まで幅広い世代が被害に遭っています。

携帯電話に「登録料の未払いがある」とメールが送られてきても慌てずにはまずはご家族や警察に相談してください。

犯人は、「間違いであれば後で返金するので一旦支払って」「コンビニで電子マネーを買って番号を教えて」と言ったりしますが、答えは「NO! (ノー!)」とはっきり断りましょう。



電子マネー「番号教えて」答えはNO!

特殊詐欺被害防止の合言葉

電話口 お金の話 それは詐欺

～電話でお金のお話が出れば詐欺を疑って、ご家族や警察に相談してください～

令和元年8月2日
奈良県警察本部
生活安全企画課
(犯罪抑止対策室)